



昨年11月、武田義信師範によるチリ国際合宿が行われました。武田師範がチリに行かれるのは今回が初めてで、師範の他大雄先生をはじめ日本から八名の参加者が共に海を渡り、現地の合宿に参加すると同時にチリ国内を周り、現地の方々との交流を深めていられました。チリの皆様と我々の交流もすでに6年近くになります。来年5月にはAKI東戸塚本部道場30周年に合わせ、また多くの々が来日される予定です。これから御紹介します感想にもありますように、明るく、情の深いラテンの方々との交流を是非皆様にも体験して頂ければと思います。チリ合宿に参加された皆様のうち、毛利美由良初段、上田興文四段、壺内久充七段、高柳大悟、藤田玲欧馬の皆様から感想文を頂いておりますので御紹介致します。

チリ遠征記

(平成23年11月5日〜20日)

鶴岡八幡宮研修道場 毛利 美由良

私にとって初めての海外遠征の行き先は、地球の反対側の日本から一番遠い国、チリでした。それだけに、出発前は不安でいっぱいでした。

International Exchange in Chile 2012

Yoshinobu Takeda Shihan with 8 Japanese Aikido Members meet Chile



まずは、宿泊場所です。当初オーストラリア人の男性二人と、現地の方のご家族所有の空いているアパートに泊まることになっていて、場所も間取りもわからず、想像するのも難しいことでした。ところが、到着してみると全く違っていて「チリの山本洋さん」ことエドアルドさんのお宅にホームステイさせていただけることになりました。美人の奥様ロレナさんもご夫妻そろって白山道場のメンバーです。6歳の息子さんクレメンテ君の部屋を私のために空けてくださり、英語も通じて、快適な生活でした。道場からかなり遠いお宅でしたが、朝稽古もセミナーも車で送ってくださり、食事や洗濯も何の不自由もなく、本当に良くしていただいていた感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、クレメンテ君の部屋に荷物を運び込みほっとしたところで、いざスーツケースを開けてみると、何やら芳しい香りが・・・お土産に持っていった2本の日本酒のうち1本の瓶が割れていたのです。稽古もしないうちから、胴着から何から洗濯する最悪の事態となりました。それでもそこは日本と違って、からっとした初夏のチリのこと、洗濯物がよく乾き、ことなきを得ました。

ところで、本番の合気道ですが、到着の翌日から朝稽古があり、初めて白山道場を訪れることになりました。ガラス窓に囲まれた明るい道場は日本の道場とはだいぶ感じが違って見え、コトさんの朝稽古も小刀を使ったもので、私にはあまり馴染みのないものでした。ところが、チリの方と組んでみると、その柔らかさといふ、身のこなしといい、日本で不思議な感じさえ受けました。ずいぶん遠くへ来たのに、ホームに帰ったような安堵感を覚えませんでした。お陰で、その後の白山道場でのセミナーも、それに続くラスコンデス地区にある会場を使ったオープンセミナーも、何の違和感もなく合気道ができました。

オープンセミナーの会場設営は道場をあげて行われ、畳の搬入から始まり、美しい床の間の完成は前日の深夜1時を過ぎていたと聞きました。セミナーにはペルー、アルゼンチンといった近隣の国々からも武田先生を慕って愛好家が集まり、中には先生の演武をYouTubeで見たい、ようやく先生にお目にかかれたと大喜びの方もいらして、日頃から武田先生に教えていただいている自分がいかに幸せ者かを思い知らされました。オープンセミナー参加者は総勢80人余り、3日間のセミナーは大盛況に終わりました。

セミナーが始まってすぐの頃、この旅のために用意した最新型のキャノン製カメラの充電器が動作しなくなるというトラブルが起こりました。2本持っていた電池も、十分過ぎるギガのメモリーカードも役に立たなくなりました。そのとき、矢島さんと金さんがステイしていたお宅のクリスチャンさんが、親切にも私を現地のキャノンに連れて行ってくださいました。充電器の修理や交換は無理でしたが、クリスチャンさんの交渉の末、2本の電池を預けて充電してもらえなくなりましたが、日程はまだ前半も終わっていませんでしたが、結局この時の電池を最後の最後、成田到着まで、大切に使用して写真を撮ることができたのは本当に幸運でした。

やがてセミナーも最終日、翌日からは3泊4日のピスコ・エルキへの観光という日、見学にきていたクレメンテ君が会場の撤収作業の最中、倒れてきました板の下敷きになるという事故が起こってしまいました。シャワーを浴びていた母親のロレナさんも大急ぎで駆けつけたものの、動転して涙目です。